

77th kanto university league soccer 入替戦

never

2003.11.3号

編集：関東大学サッカーリーグ戦プログラム制作委員会 印刷：関東大学サッカー連盟

11月3日(月) 1部-2部入替戦

13:00 KICK OFF

順天堂大学

(1部リーグ7位)

VS

法政大学

(2部リーグ2位)

- ・順天堂大学が勝った場合…それぞれ現在所属するリーグに残留
- ・法政大学が勝った場合…順天堂大学は23年振り2部降格、法政大学は17年振り1部昇格
- ・90分を経過して勝敗が決しない場合は、30分を限度とするVゴール方式の延長戦  
それでも勝敗が決しない場合は、それぞれ現在所属するリーグに残留

### 2部-都県入替戦

11/24(月) 14:00 K.O 江東区夢の島競技場

青山学院大学 VS 関東大学サッカー大会準優勝校 (詳細は最終面を参照)  
(2部7位) (都県2位)

# 順天堂大学

2001年にリーグ戦に2期制が導入されてから、「前期は低迷、後期に巻き返し」というパターンを2年連続で踏襲してきた順大。しかし今年は後期の巻き返しが一歩及ばず、7位で2部リーグへの入替戦に臨むことになった。1992・1993年の連続出場以来、10年振りである。

今年の順大で目につくのは失点の多さ。中大、日大の16点の倍近い30という失点が、最後に足枷となった。もう一つの特徴は、4勝10敗と引き分けが一つもなかったことだ。同じ勝点12ながら得失点差で6位となった中大の6引き分けとは対照的である。また昨年は、勝数は今年と同じ4だが引き分け数で稼いだ勝点3で入替戦を逃れただけに、今年のチームの「勝負弱さ」、あと一歩を粘り切れなかったことに悔いが残る。

「戦術がどうというより、問題は戦う姿勢」と一貫してメンタル面を強調してきた吉村監督は、「ギリギリまで追い詰められなければ、リーグ終盤のような集中力を発揮できないことが問題」と嘆いた。しかし今度は入替戦。文字通り「ギリギリまで追い詰められた」状況である。大雨の中でも自分たちのサッカーを見失わず無失点に切り抜けた中大戦、前半に先制されながら後半に逆転した最終節の日大戦のような戦いで、1部で培ってきた精神力を証明したいところだ。主将のMF石川、DF鈴木ら4年生を中心に、最後の踏ん張りが期待される。

明るい材料もある。リーグ14試合で17得点を挙げている攻撃力だ。トップ下にコンバートされた石川、ユニバ代表のMF堀、FW鴨川らを中心に両サイドを広く使い、リードされた苦しい状況でも点を取れる力がついてきた。攻撃力のある法政大には苦戦を強いられることが予想されるが、相手が点を取りにくる分チャンスもある。「あとは、自分たちがやるべきことを理解したうえで、90分間集中して戦うだけ」と吉村監督。「逆転の順大」「崖っぷちの順大」の底力が問われている。

## 最近4年間の成績

2000	1部リーグ5位 (1勝1敗5分)
2001	1部リーグ3位 (5勝4敗5分)
2002	1部リーグ6位 (4勝7敗3分)
2003	1部リーグ7位 (4勝10敗)

⇒入替戦 VS 法政大

## <順大予想布陣>

多田源一郎			
石川健太			
堀 健人			茅島史彦
佐藤健太郎		伊東裕聖	
境谷 主	中村英之	鈴木洵也	藤田義明
遠間弘紀			

※予想布陣は直近の試合を参考としたもの

## ☆☆1部リーグ星取表☆☆

順位	1部	駒澤大	筑波大	国士大	東学大	亜大	中大	順大	日大	勝	負	分	得点	失点	得失点差	勝点
1	駒澤大	6○4 4○1	2○1 2●3	3○0 2○1	2○1 3○1	1○0 0△0	3○2 6○0	1△1 1△1	10	1	3	36	16	+20	33	
2	筑波大	4●6 1●4	0●2 1△1	1○0 0●3	6○0 2○0	3○0 1△1	2○1 4○1	2○1 1○0	8	4	2	28	20	+8	26	
3	国士大	1●2 3○2	2○0 1△1	2△2 1○0	2△2 0●1	3○1 7○2	2○1 1△1	2○1 1●3	1○0 0●1	7	4	3	26	18	+8	24
4	東学大	0●3 1△2	0●1 3○0	2△2 1○0	1△1 0●2	1△1 2○0	1○0 1△1	2○0 2○1	2○0 1●2	7	4	3	19	13	+6	24
5	亜大	1●2 1●3	0●6 0●2	1●3 2●7	1△1 0●2	1○0 0●1	3○2 2○0	1○0 1○0	5	8	1	14	29	-15	16	
6	中大	0●1 0△0	0●3 1△1	1●2 1△1	0●1 1○0	0●1 1○0	2○1 0●2	1△1 1△1	2	6	6	9	16	-7	12	
7	順大	2●3 0●6	1●2 1●4	1●2 3○1	0●2 1●2	2●3 0●2	1●2 2○0	1○0 2○1	4	10	0	17	30	-13	12	
8	日大	1△1 1△1	1●2 0●1	0●1 1○0	0●2 2○1	0●1 0●1	1△1 1△1	0●1 1●2	2	8	4	9	16	-7	10	

※上段は前期、下段は後期の成績

順大とは逆に、過去4年間は「前期に走って後期に失速」という傾向が目につく法政大。特に2000・2001年は、優勝に王手までかけながら残り3試合で足踏みというパターンで、2001年は何とか入替戦出場権だけは死守したものの下降気味の調子で臨んだ入替戦は完敗。1部に届きそうで届かないシーズンが続いている。

今季もどちらかといえばその傾向。3連勝のスタートダッシュで2節終了時から首位に立ち、初めての黒星は第7節。後期開幕でいきなり流経大に敗れて首位を陥落したが、流経大以外に勝点を伸ばすチームが現れなかったことが幸いし、2位に食い込んだ。首位を走った前期も、内容的には手放しで喜べるものではなかった。前横谷監督時代から培った堅守と、プレスキックの能力に優れるMF長山を軸としたセットプレーからの得点、続出するケガ人に代わり出場する選手が日替わりヒーローとなるなどうまく結果につながってきたが、長山頼みのゲームメイクには限界があった。

後期も開幕でエースのFW荒木が負傷するなどケガ人が減らなかったが、その中でFW蔭地の成長と1年生の台頭、特に入替戦に向けてはパスセンスのあるルーキー・MF松永のデビューが大きなポイントとなった。蔭地は前期最終節で初スタメン、後期はほぼフル出場で荒木に代わりチームの得点源に。また、12～14節に出場した松永は、長山の負担を軽減させると共にパスの起点を増やすことに貢献し、チームの幅を広げた。さらに、後期から出場したMF常盤がボランチで使える目処がたち、「最少失点にとどめておきたい」（照井監督）という入替戦では人に強いMF秋本を1列下げてセンターバックで起用する方策がとれるようになった。

今年の順大とは関東選手権で対戦し2-1で勝利しているが、大雨の後の試合だけにあまり参考にはしていないようだ。先行されてもセットプレーで簡単に追いつけるという実績は残してきているが、先行する試合が多かっただけに逆転まで至った試合がないのが気にかかる。若いチームだけに、勢いを出せば勝機はみえる。

### 最近4年間の成績

- 2000 2部リーグ3位  
(3勝2敗2分)
- 2001 2部リーグ2位  
(7勝3敗4分)  
→入替戦 VS 慶應大  
0-2で敗れ2部残留
- 2002 2部リーグ3位  
(6勝6敗2分)
- 2003 2部リーグ2位  
(7勝4敗3分)  
→入替戦 VS 順天堂大

### <法政大予想布陣>

蔭地弘貴	井上平
松永幸大	野木健司
常盤亮介	長山一也
橋元圭一郎	姜成浜
秋本倫孝	稲垣貴之

丑澤準一

※予想布陣は直近の試合を参考としたもの

### ☆☆2部リーグ星取表☆☆

順位	2部	流経大	法政大	東農大	明治大	東海大	慶應大	青学大	国武大	勝	負	分	得点	失点	得失点差	勝点
1	流経大	2○11 3○11	2○11 4○11	0●22 2△22	2●44 3○22	4○33 1○00	3○11 5○11	0△00 4○11	10	2	2	35	20	+15	32	
2	法政大	1●22 1●33	1△11 2○11	3○00 0●11	1○00 0△00	2△22 1●22	3○00 5○00	3○11 4○11	7	4	3	27	14	+13	24	
3	東農大	1●22 1●44	1△11 1●22	2○00 1△11	0●22 1△11	5○00 2○00	1○00 3○22	2△22 1○00	1●22 2○11	6	5	3	22	19	+3	21
4	明治大	2○00 2△22	0●33 1○00	2○00 1△11	1●33 0△00	1○00 0●22	2△22 1△11	1△11 1○00	5	3	6	15	15	±0	21	
5	東海大	4○22 2●33	0●11 0△00	0●55 0●22	3○11 0△00	1△11 0●33	1●22 2△22	2○11 2○00	4	6	4	17	23	-6	16	
6	慶應大	3●44 0●11	2△22 2○11	2○11 0●33	0●11 2○00	1△11 3○11	1○00 0●22	0●22 1●44	4	8	2	18	23	-5	14	
7	青学大	1●33 1●55	0●33 0●55	2△22 0●11	1△11 2△22	2○11 2△22	2○00 1●22	2○00 2△22	3	6	5	18	29	-11	14	
8	国武大	0△00 1●44	1●33 1●44	2○11 1●22	1△11 0●11	1●22 0●22	2○00 4○11	0●22 2△22	3	8	3	16	25	-9	12	

※上段は前期  
下段は後期の成績

# 法政大学

## 決定!! 自動昇格&降格チーム~77th リーグ戦 PlayBack

### 流经大が初の1部昇格! 日大と国武大は1年で下部リーグへ逆戻り

9月12日から10月26日まで開催されていた第77回関東大学サッカーリーグ戦は、1部リーグが駒澤大の2連覇、2部リーグは流经大の初優勝で幕を閉じた。リーグ戦の結果、1・2部とも8位となったチームは下部リーグへの自動降格、2部リーグからは優勝チームの1部リーグへの自動昇格が既に決まっている。また、都県から関東2部リーグへの自動昇格チームは、関東大学サッカー大会の結果により11月16日に決定する。

2部リーグ優勝の流经大は、前期こそ連敗スタートを喫したものの徐々に調子を上げ、その後は無敗で、2試合を残した時点で優勝を決めた。これは、2001年に前期・後期の2期制が導入されてから最短の記録である。中野監督は、「2部で2年間戦って、上を目指すには引き分けではダメということがわかった。勝点3を貪欲に狙いに行く試合をし

なければ優勝はできない。リスクを負ってでも勝ちにいく姿勢が大切。来年は1部になるが、この姿勢を忘れずに戦っていきたい」と話した。

11年振りに1部で戦った日大は、突出した選手がいない中きっちりパスをつなぐサッカーで挑み、駒澤大と同数の失点16と健闘しながら、複数点を奪ったのがわずか1試合と得点力不足に最後まで苦しんだ。開幕直前に負傷したNo.10・大谷の復帰の遅れと、試合終了直前の失点が続き精神的ダメージを払拭し切れなかったのが悔やまれる。

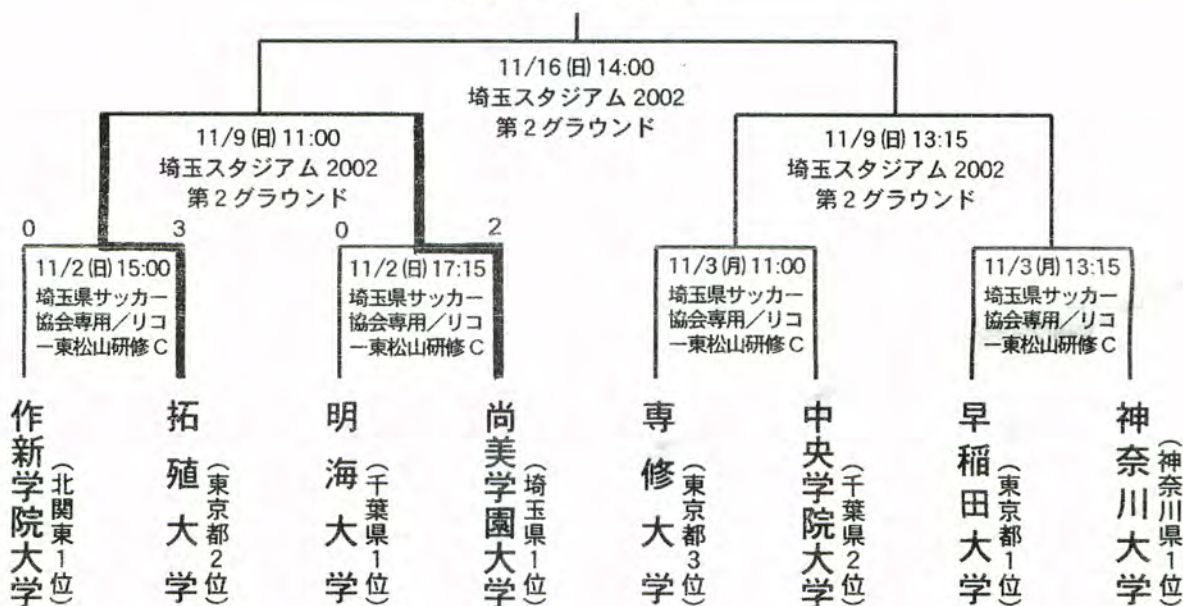
初めての関東リーグ挑戦だった国武大は、前期2勝2分と健闘したが後期はケガ人が続出。大量失点続きのスタートでチームの立て直しがきかず、残念ながら1試合を残して最下位が決定してしまった。最終戦で手にした意地の1勝が、再挑戦への第一歩になるであろうことを期待したい。

## 2部昇格&入替戦挑戦チームはどこに!? 関東大学サッカー大会情報

国武大と入れ替わり、来季関東2部リーグへ自動的に昇格するチームは、関東地域7都県の代表校8校が出場する関東大学サッカー大会で決定する。出場校は、前年優勝校の属する都県(昨年は国武大=千葉県)から1校、東京都3校、千葉・埼玉・神奈川各1校、北関東地区(茨城・栃木・群馬)1校。準優勝校は、関東2部リーグ7位の青学大との入替戦出場権を得る。なお、今大会は20分を限度とする延長Vゴール方式で実施される。

### 第36回関東大学サッカー大会日程

#### 優勝&関東2部昇格



平成15年度

関東大学サッカーリーグ 入替戦

11月3日(祝・月) 13:00 Kick Off



Juntendo Univ.

順天堂大学

VS

Hosei Univ.  
法政大学



順天堂大学 (03後期リーグプロP32~34)

No.	位置	氏名	学年	身長	体重	出身校	備考
1	GK	齋 正志	3	183	70	大津高	日本高校選抜 (高3)
2	DF	谷内 謙介	2	180	69	伊奈学園総合高	
3	DF	鈴木 洵也	4	170	65	習志野高	
4	DF	千坂 教雄	4	175	68	市立船橋高	
5	DF	藤田 義明	3	180	64	宇都宮白楊高	全日本大学選抜 (大3)
6	MF	佐藤 健太郎	1	174	64	名張西高	
7	MF	伊東 裕聖	2	173	65	帝京高	FC東京U-18
8	MF	矢野根 崇	3	175	68	伊奈学園総合高	関東選抜B (大2)
9	MF	堀 健人	3	173	70	広島皆実高	ユニバシアード代表 (大3)
⑩	MF	石川 健太	4	179	65	磐田東高	関東選抜B (大3)
11	FW	鴨川 奨	3	176	65	大分鶴崎高	関東選抜B (大2)
12	FW	江田 照良	3	173	65	藤代紫水高	
13	FW	多田 源一郎	1	187	74	柏南高	柏Y
14	MF	寺田 信之介	2	176	69	修徳高	
15	DF	小宮山 尊信	1	174	65	市立船橋高	日本高校選抜 (高3)
16	DF	藤本 教	2	180	65	岩国高	
17	MF	中村 英之	1	184	74	帝京高	
18	MF	佐藤 拓馬	4	170	63	柏南高	柏Y
19	DF	石崎 庸介	1	180	76	秋田南高	
20	DF	成島 裕明	3	186	77	蕨崎高	
21	GK	伊藤 良	4	170	69	岸根高	
22	MF	茅島 史彦	4	170	60	佐野日大高	
23	DF	沖山 友晴	4	164	61	岡谷南高	
24	MF	桑川 幸司	4	172	63	伊奈学園総合高	
25	FW	中山 良彦	3	168	63	伏木高	
26	DF	境谷 主	2	173	65	鉢田第一高	鹿島Y
27	DF	山中 航	3	178	70	船橋西高	
28	DF	大坂 圭	1	178	68	新潟明訓高	
29	MF	渡邊 哲也	1	180	76	郡山高	
30	GK	遠間 弘紀	1	186	80	高崎経済大附属	

法政大学 (03後期プロP42~44)

No.	位置	氏名	学年	身長	体重	出身校	備考
1	GK	丑澤 準一	4	178	70	南野高	ヴェルディY
2	DF	稲垣 貴之	1	179	66	浦和実業高	浦和Y
3	DF	杉本 純一	4	173	63	桐光学園	
4	DF	橋元 圭一郎	2	183	68	四日市中央高	
5	DF	姜 成浜	3	180	74	市立船橋高	
6	MF	秋本 倫孝	3	180	75	清水商業高	
7	MF	流田 雄一郎	3	170	60	吉田高	広島Y
8	MF	野木 健司	3	174	65	武南高	
9	FW	荒木 洋太	4	175	68	佐野日大高	日本高校選抜 (高2)
⑩	MF	長山 一也	4	165	65	帝京第三高	
11	FW	林 聖之	4	168	68	蕨崎高	
12	GK	為田 聡史	3	178	73	清水商業高	
14	MF	原 明洋	4	178	66	新潟明訓高	
15	MF	津島 公人	3	167	63	武南高	日本高校選抜 (高3)
18	FW	陰地 弘貴	2	179	68	市立松戸高	
22	DF	後藤 英介	2	185	74	仙台育英高	
23	DF	鈴木 周吾	2	174	65	宇都宮白楊高	
24	DF	谷田 悠介	2	173	65	武南高	
26	MF	鳥澤 和正	2	172	65	清水商業高	
27	FW	小助川 慶太	1	168	62	与野高	浦和Y
28	MF	松永 幸大	1	172	68	桐蔭学園高	
29	MF	常盤 亮介	1	179	67	大原高	湘南Y
30	FW	井上 平	1	173	67	清水商業高	
33	MF	内田 潤	3	177	63	安芸南高	
34	DF	小笠原 悟史	1	175	65	都立蒲田高	FC東京U-18
45	GK	千葉 航一	1	178	73	東金沢高	横浜FM・Y

77th kanto university league soccer 入替戦

n e v e r

2003.11.24号

編集：関東大学サッカーリーグ戦プログラム制作委員会 印刷：関東大学サッカー連盟

11月24日（月） 2部一都県入替戦

14:00 KICK OFF

青山学院大学

(2部リーグ7位)

VS

拓殖大学

(都県2位)

- ・青山学院大学が勝った場合…それぞれ現在所属するリーグに残留
- ・拓殖大学が勝った場合…青山学院大学は25年振り東京都1部リーグ降格、  
拓殖大学は20年振り関東2部リーグ昇格
- ・90分を経過して勝敗が決しない場合は、30分を限度とするVゴール方式の延長戦  
それでも勝敗が決しない場合は、それぞれ現在所属するリーグに残留

# 青山学院大学

昨年は1部リーグ8位。1試合を残して6位だったが最後に順大と慶應大に抜かれ、自動降格となってしまった。3年ぶりに再び2部に所属を移して戦った今季の低迷は、後期の不振の一言に尽きる。下級生の頃からチームの主軸を成していた経験豊富な学年が卒業し、確かに今季は転換の年だった。スターティングメンバーの半数を2年生が占めるといふ若いチームは、前期は第4節まで負け知らず。上位となった法政大と流経大には敗れたものの、昨年1部同士の慶應大戦を制し、得点差による3位で折り返した。続く関東選手権では、準々決勝で筑波大から前半に2点を奪い総理大臣杯出場に近づいたが、後半に追い付かれて延長で散った。

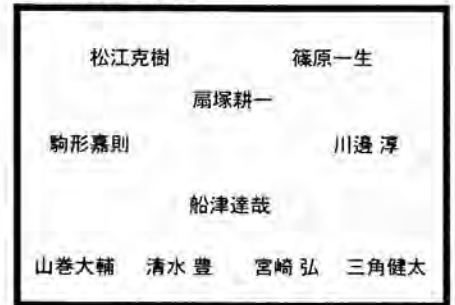
結果からは好調に見えた今季前半だったが、180cmの松江と185cmの篠原のFWコンビで打開するパターンが多く、中盤のパス回しから崩していく青学らしいコンビネーションが確立できなかったことに不安を覗かせる選手も多かった。その不安が結果に出てしまったのが後期だ。「あそこで勝ち切れなかったところから始まった」と、MF駒形主将が話す後期2試合目の東海大戦。一度は逆転しながらロスタイムにFK一発で追い付かれ、「勝たなきゃいけない気持ちが裏目に出た」(駒形)という泥沼状態に陥っていく。チェックがルーズになり、FWまでボールを運べなくなった。前後半とも立ち上がりにも失点が多いことがさらに悪循環を呼び、12・13節では大量失点に加え警告や退場で自ら崩れた。

とにかく悪い面がすべて出た後期だったが、最終節の2得点は自信を取り戻させるようなコンビネーションから生まれた。従来のダブルボランチから、得点力向上のためMF扇塚をトップ下に上げた形も機能してきた。前線から素早いチェックを仕掛けてボールを奪いに行くという、忘れかけていた青学サッカーをもう一度見直したこの1ヵ月。先行されると逆転まで至れない精神面の脆さと、1980年の関東復帰以来一度も経験していない都県との入替戦のプレッシャーをはねのけ、力を出し切れるかどうか勝負だ。

## 最近4年間の成績

2000	2部リーグ1位 (5勝1敗1分) ⇒入替戦 VS 日本体育大 2-1で勝利し1部昇格
2001	1部リーグ6位 (6勝8敗)
2002	1部リーグ8位 (3勝8敗3分) 2部へ自動降格
2003	2部リーグ7位 (3勝6敗5分) ⇒入替戦 VS 拓殖大

## <青学大予想布陣>



中西 功

※予想布陣は直近の試合を参考としたもの

## ☆★関東2部リーグ星取表★☆☆

順位	2部	流経大	法政大	東農大	明治大	東海大	慶應大	青学大	国武大	勝	負	分	得点	失点	得失点差	勝点
1	流経大	2○1 3○1	2○1 4○1	0●2 2△2	2●4 3○2	4○3 1○0	3○1 5○1	0△0 4○1	10	2	2	35	20	+15	32	
2	法政大	1●2 1●3	1△1 2○1	0●1 0△0	1○0 0△0	2△2 1●2	3○0 5○0	3○1 4○1	7	4	3	27	14	+13	24	
3	東農大	1●2 1●4	1△1 1●2	0●2 1△1	5○0 2○0	1○0 3○2	2△2 1○0	1●2 2○1	6	5	3	22	19	+3	21	
4	明治大	2○0 2△2	0●3 1○0	2○0 1△1	1●3 0△0	1○0 0●2	1△1 2△2	1△1 1○0	5	3	6	15	15	±0	21	
5	東海大	4○2 2○3	0●1 0△0	0●5 0●2	3○1 0△0	1△1 0●3	1●2 2△2	2○1 2○0	4	6	4	17	23	-6	16	
6	慶應大	3●4 0●1	2△2 2○1	0●1 2●3	0●1 2○0	1△1 3○0	0●2 2○1	0●2 1●4	4	8	2	18	23	-5	14	
7	青学大	1●3 1●5	0●3 0●5	2△2 0●1	1△1 2△2	2○1 2△2	2○0 1●2	2○0 2△2	3	6	5	18	29	-11	14	
8	国武大	0△0 1●4	1●3 1●4	2○1 1●2	1△1 0●1	1●2 0●2	2○0 4○1	0●2 2△2	3	8	3	16	25	-9	12	

※上段は前期、下段は後期の成績



近年では1996年に東学大と(0-1)、1998年には東農大と(1-1、再試合0-0)の入替戦に臨みながら、関東復帰の目標を達成できていない拓殖大。東京都1部リーグでは常に上位を争い、関東大会の常連だったが、2000年に最下位となり東京都2部落ちを経験した。2部では2位ながら1年で1部復帰を果たしてからは、以前までの自由奔放で荒削りなサッカーが一変、組織的なディフェンスと緻密な意志統一によるワンタッチパスを多用したコンビネーションで安定感が飛躍的にアップ。混戦と言われた今季の東京都1部リーグでは平均2得点1失点の安定したペースで、早稲田大に次ぐ2位に入った。

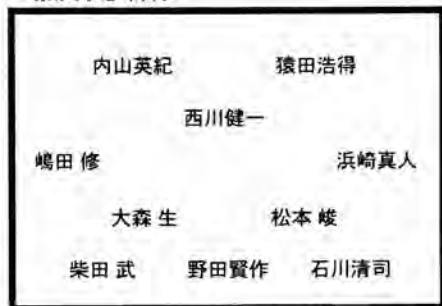
チームの安定感の根幹を成すのは、3バックの最終ライン。身体の強さと足元の技術を兼ね備えるDF野田賢を中心に、中盤との連携で相手にシュートを打たせない守備を敷く。「守備がいいので、前が点を取れば勝つ自信がある」(FW内山主将)と、信頼関係も抜群だ。攻撃面は、両サイドとも運動量のあるMF嶋田・浜崎の攻撃とエース内山の得点力、FW猿田の突破が特徴。猿田は持ち前のスピードと運動量で、攻守ともに貢献度が高い。

去年からメンバーをほぼ固定し、相手に合わせずパススピードを意識したサッカーを展開してきたという拓大だが、関東大会決勝では完全に専修大のサッカーに巻き込まれてしまった(関東大会の結果は最終面を参照)。高さを武器にロングボールを多用したダイナミックなサッカーに対処できず、自信を持っていたはずの運動量勝負で敗れた。自分達のサッカーを全く発揮できずに終わった決勝は、「皆の動きが重かった。重圧があったのかもしれない」(玉井監督)という。既に関東大会さえ初体験という学生ばかりになっていた経験のなさが、昇格のためのプレッシャーを倍加させた。しかし、チャンスはあと1試合ある。猿田の突破を封じられた時の打開策と、野田賢の決勝での負傷が懸念されるが、今季の力を発揮できればがっぶり四つに組んだ試合ができるだろう。

### 最近4年間の成績

- 2000 東京都1部リーグ8位  
(1勝5敗1分)  
東京都2部へ自動降格
- 2001 東京都2部リーグ2位  
(4勝2敗1分)  
→入替戦 VS 上智大  
2-1で勝利し1部昇格
- 2002 東京都1部リーグ5位  
(3勝2敗2分)
- 2003 東京都1部リーグ2位  
(5勝1敗1分)  
関東大会準優勝により都県2位  
→入替戦 VS 青山学院大

### <拓大予想布陣>



谷口昌史

※予想布陣は直近の試合を参考としたもの

### ☆☆東京都1部リーグ星取表☆☆

順位	東京都	早稲田大	拓殖大	専修大	日体大	東洋大	日大文理	立正大	帝京大	勝	負	分	得点	失点	得失点差	勝点
1	早稲田大		2○1	1△1	1△1	3○0	4○1	4○1	2○1	5	0	2	17	6	+11	17
2	拓殖大	1●2		2△2	1○0	1○0	3○1	4○1	2○1	5	1	1	14	7	+7	16
3	専修大	1△1	2△2		0●1	0●6	2○1	4○1	4○0	3	2	2	13	12	+1	11
4	日体大	1△1	0●1	1○0		1○0	1●2	3○2	1△1	3	2	2	8	7	+1	11
5	東洋大	0●3	0●1	6○0	0●1		1●4	1○0	5○1	3	4	0	13	10	+3	9
6	日大文理	1●4	1●3	1●2	2○1	4○1		1△1	2●4	2	4	1	12	16	-4	7
7	立正大	1●4	1●4	1●4	2●3	0●1	1△1		3○1	1	5	1	9	18	-9	4
8	帝京大	1●2	1●2	0●4	1△1	1●5	4○2	1●3		1	5	1	9	19	-10	4

-----拓殖大学

## 順天堂大学1部死守！法政大学は昇格ならず<1-2部入替戦>

順天堂大学 3  $\begin{pmatrix} 0-0 \\ 3-0 \end{pmatrix}$  0 法政大学

得点/73分 堀健人 (アシスト鴨川奨)  
89分 堀健人 (アシスト石川健太)  
89分 石川健太 (PK)

11月3日に行われた1-2部入替戦は、終盤に3点を奪った順大が1部の座を死守、残留を決めた。前半は完全な法政大ペースで進んだが決定機を作ることができず、徐々にリズムを取り戻した順大が73分ついに1点を奪取。法政大は3枚のカードを切って逆襲を狙ったが、逆に順大がロスタイムにカウンターから得点し、とどめを刺した。

## 専修大学が6年ぶりの2部復帰決める！<関東大学サッカー大会>

1998年、流経大に敗れて東京都1部リーグに降格、2000年の入替戦では日大を追い詰めながら89分に同点ゴールを許して復帰を逃し、都で5シーズンを過ごした専修大がついに関東に戻ってきた。

今季は東京都3位。勝点、さらに得失点差も並んだ日体大を得点差で上回って滑り込んだ関東大会だった。初戦を快勝し、優勝候補筆頭だった早大との準決勝は、相手のパワフルな攻撃を守備陣が粘り強く凌いで86分に勝ち越し。決勝でも、固さの見た拓大に対して「高さのあるトップを生かすようシンプルに徹底してきた」(吉川和正監督)という自分達の形を存分に発揮し、85分に今大会すべての得点を叩き出してきたFW三輪宏真(3年)がMF神田勇輝(3年)のパスを押し込んで決勝点。念願だった関東2部復帰を果たした。

吉川和正監督「降格してからは選手のモチベーションを保つのが難しかった。大きな選手を生かす形に変えてきたが、関東でこんなサッカーでは勝てないと思う。さらに頑張らなければいけない」

青木大輔主将(GK,4年)「素直に嬉しい。個人じゃなくチームの力になってきた結果。グラウンド使用の関係で練習は早朝に、短時間で密度濃くやってきた。ここまでやってきた経験を生かして、チーム一丸となって2部で花開いてもらいたい」

三輪宏真(FW,3年)「昇格は目標だったけどまだ実感が無い。引っ張ってくれた4年に感謝です。FWだから点を取るのが役割だけど、パスを出す人がいるから取れる。簡単に落ちないようにしたい」



### 第36回関東大学サッカー大会結果

#### 優勝&関東2部昇格 専修大学

